

とう ごう しつ ちゅう しょう  
あきらめないで！

# 統合失調症

「統合失調症」への  
名称変更



とう ごう しつ ちゅう しょう

ある日、大学生のA子さんは、医師である叔父のもとを訪ねました。それは「統合失調症」という病気を説明してもらうためです。みなさんは、統合失調症のことをご存じですか？ほんの16年前まで「精神分裂症」という名称だった病気です。

この名称は、精神疾患の患者さんやそのご家族への、偏見や誤解を生みだした原因のひとつと言つてもいいかもしません。A子さんと一緒に、正しく「統合失調症」のことを知つてみませんか。

## 統合失調症の原因

に妨げられてはならないということが、2002年に「統合失調症」という名前に変わったんだ。

叔父（以下、叔）：A子ちゃん、今日はなぜ統合失調症のことを聞きましたね？

A子（以下、A）：実は、友達のいとこが統合失調症と診断されたの。友達もとても心配して、何かサポートしたいんだけど、私はこの病気のことをよく知っているから。

叔：…そうだったのか。統合失調症は、解明されていないところも多い難しい病気ではあるが、珍しい病気じゃないんだよ。10代後半から30代にかけての発症が最も多く

A..精神分裂症といふ名前だったか知つているかい？

A..精神分裂症といふ名前だったか知つているかい？

叔：…精神分裂症といふ名前だったのよね。なぜ病名が変わったの？

A..統合失調症は治る病気になつたのね！

叔：…最初についた病名は、英語の病名を正確に表現できていなかつたんだ。当時は効く薬もなく、治療の見通しがつかない病気だった。

A..現在、統合失調症は「脳の病気」という認識が一般的だ。だが、はつきりした原因は今でもわかつていない。だから、原因が解明されていらない以上、正確には治癒で

はなく寛解や回復というのが適切なのかな。脳の神経伝達物質の乱れや、脳の形状変化や機能低下、統合失調症になりやすさの遺伝など、複数の原因が存在していると

叔：…そうだったのか。統合失調症は、解明されていないところも多かったから、症状の悪化した患者さんの異常な行動は、刺激の強い「精神分裂病」という名前とともに、マニスのイメージを世の中の人々

A..精神分裂症といふ名前だったか知つているかい？

叔：…精神分裂症といふ名前だったのよね。なぜ病名が変わったの？

A..現在、統合失調症は「脳の病気」という認識が一般的だ。だが、はつきりした原因は今でもわかつていない。だから、原因が解明され

ていて、今は寛解（症状が一時的に・継続的に改善する状態）して社会復帰する患者さんもたくさんいるんだよ。患者さんとその家族の治療への取り組みが、人格否定にもつながりかねない病名のため

## 統合失調症の症状と診断

A .. 統合失調症になるとどんな症状がでるの?

叔 .. 症状には妄想や幻覚、幻聴、物事を系統立てて考えられなくなったり思考が飛躍する、興奮、時に暴

だ。

叔 .. そうとは言っていないよ。早期発見・早期治療によって、症状が消失してしまい元通りの生活を送れるようになる患者さんもいる。

A .. 難しい病気なのね。では回復するのは難しいの?

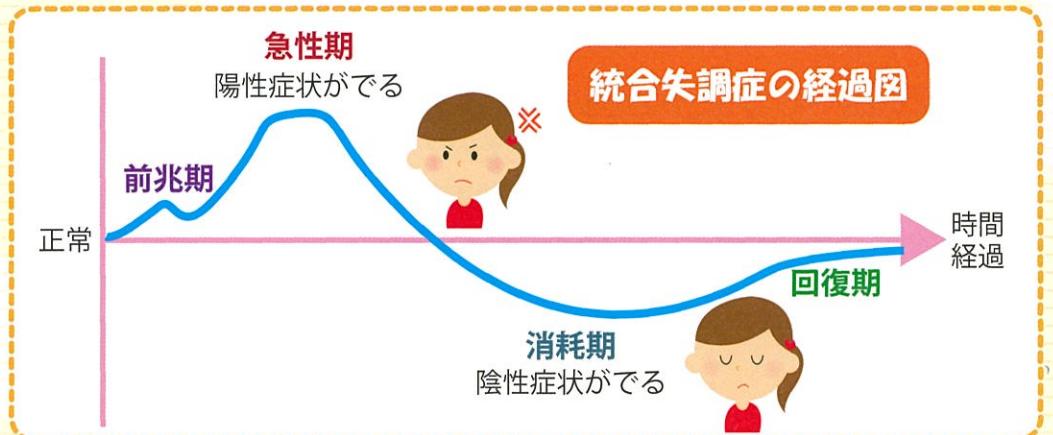
叔 .. は発症しない。これらの因子に対して何らかのストレスや病気が引き金になつて発症すると考えられているんだ。

力的になるなどの「陽性症状」と、無気力や疲れやすさ、引きこもり

状態になる「陰性症状」の2つの症状にわけられる。患者さんに

よつて、どのように発症するかは全く異なるけれど、図のような経過をたどるよ。部分的に見ると似た症状が出る病気は他にもある。

だから、経験を積んだ医師が患者さんと詳しく面談し、「統合失調症」と診断するんだ。



A .. この図を見ると統合失調症は、真逆の症状が出る病気なのね。どんな治療を行なうのかしら。

叔 .. 統合失調症の治療で最も重要なのは、薬物療法。そして補助療法としてリハビリを行なうことで回復率はさらに上がると言われている。薬物療法では、抗精神病薬を用いて脳内の神経伝達物質のバランスを整えることで、とくに陽性症状の抑制に効果があがっている。あとは、不安など患者さんそれぞれの症状によって、対症療法治療が行われる。そのため、最近は、4~5日効果が持続する注射での治療も行なわれているよ。

## 治療とりハビリ

A .. リハビリにはどんな効果があるの?

叔 .. 掃除や身の回りのこと、出来なくなつていったことを少しずつ行なえるようにし感覚を取り戻すこと。また、統合失調症の患者さんは他人とのコミュニケーションが上手くいかなかつたり、ストレスとなりやすい。他人との接し方のロールプレイを行なつたり、ストレスを避ける方法を時間をかけて考えていくなかで、自立への道が開けていくんだ。それには、患者さんに対する家族がまず理解を深め、医師や看護師、社会福祉士、作業療法士などの専門家とともにサポートしていくことが大切になるよ。

